

将来にわたり 安全な農産物を 届けるために

国際水準GAPに取り組みましょう



GAPってなあに??

良い 農業の やり方
Good Agricultural Practice

GAPとは、良い農業のやり方の頭文字のこと。
国際水準GAPは、消費者や取引先に対して「安全」な食品を提供することはもちろんのこと、農作業安全の確保や環境負荷の低減など、将来にわたって農業生産が維持・拡大できるよう私たちが取り組むべき項目をまとめたものです。

国際水準GAPって何？

農業生産の場では様々なリスクや課題を抱えています。

食品事故

- ・基準値を超過した農薬の残留
- ・刃物類、金属物、毛髪などの異物混入
- ・食中毒事故



農作業事故

- ・農機からの転落
- ・熱中症
- ・高所からの転落



環境汚染

- ・農薬や肥料の過剰使用
- ・廃棄物放置等による土壌や水源汚染
- ・温暖化の農業分野への悪影響



劣悪な作業環境

- ・差別、ハラスメントの発生
- ・時給が最低賃金以下



経営の不安

- ・無計画な作付けによる経営の悪化
- ・外部入場者による作業場の汚染



これらのリスクや課題を踏まえて…



国は、令和2年3月に、食料・農業・農村基本法に基づき、食料・農業・農村に関し、政府が中長期的に取り組むべき方針を定めました（食料・農業・農村基本計画）。その中で、令和12年までにほぼ全ての産地で

①食品安全

②労働安全

③環境保全

④人権保護

⑤農場経営管理

の5分野からなる国際水準GAPが実施されるよう導入を推進すると示し、令和4年3月に国際水準GAPの共通の取組基準として「国際水準GAPガイドライン」を策定しました。

こうした情勢から…

私たちJAグループ愛知では、令和10年度末までに国際水準GAPを導入し、令和12年度末までに定着させることを目指して取り組みを進めることとしています。

農業生産の場で抱える課題を解決し、将来にわたって安全な農産物を届けるために、
国際水準GAPに取り組みましょう！



<国際水準GAPで取り組む5分野>



分 野	主な取組内容
①食品安全	農薬の適正使用・保管、異物混入の防止、衛生管理 など
②労働安全	農業機械の安全使用、熱中症対策、高所からの転落事故防止 など
③環境保全	適切な施肥・防除、廃棄物の適正処理・利用 など
④人権保護	適切な労務管理、差別・ハラスメントの禁止 など
⑤農場経営管理	基本情報の整理・農場ルールの策定 など



◎GAPに取り組む1番の目的は『食の安全確保（食品安全）』

生産現場には、基準値を超過した残留農薬のほかに、異物や食中毒を起こす微生物など消費者の健康をおびやかす要因があります。出荷調製作業では、作業で使用する器具や毛髪などを出荷物の中に混入させてしまう可能性があります。また、不衛生な器具、用具、作業者の手などを通じて、食中毒を起こす微生物に汚染させてしまう可能性もあります。



化学的要因

基準値を超過した
残留農薬
自然毒



生物的要因

食中毒を起こす
微生物・ウイルス
腐敗や病害



物理的要因

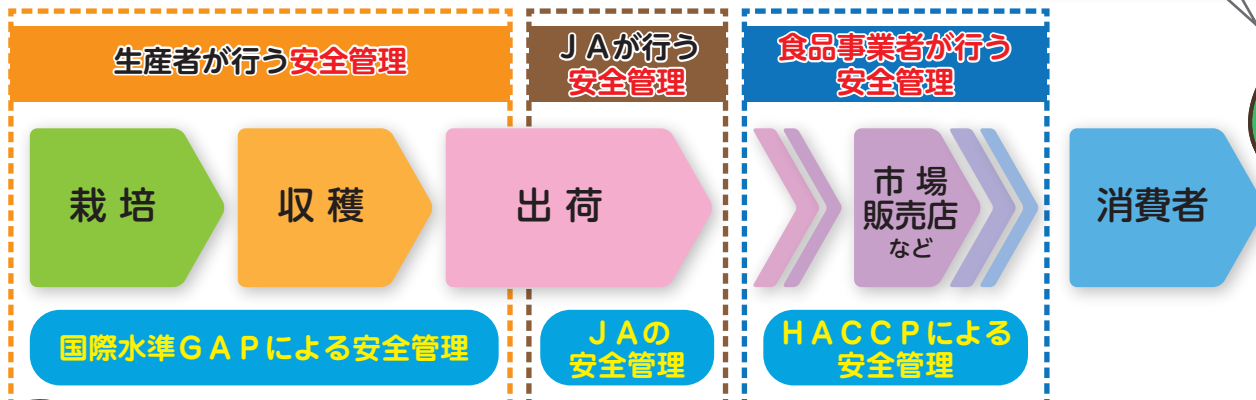
異物混入



ひとたび事故を起こすと、個人だけでなく産地全体がしばらくの間出荷停止になってしまうことがあります。また、消費者の健康に被害がでるだけでなく、産地の信頼は失われ、治療費、慰謝料、休業補償費、訴訟費用など多額の損害賠償の責任を負うことになります。

【農産物食品事故を防ぐ各流通段階の取組み】

集出荷場などでは、
J A職員も安全管理に取り組んでいます。



市場・販売店・消費者から求められた場合は「生産履歴記帳シート（栽培日誌）」と「国際水準GAPチェックシート」を提供し、栽培から出荷までの全工程で安全管理に取り組んでいることを説明します。

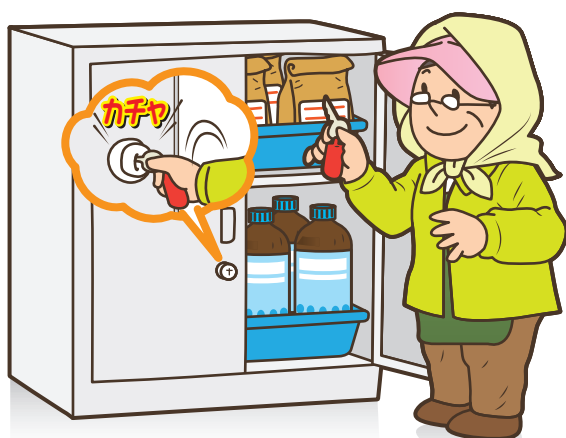


5分野の取組内容を確認しましょう

1. 食品安全：食の安全確保のための取組み

<農薬の適正使用・保管>

- 対象作物に登録のある農薬をラベルの使用基準に従って使用しましょう。
- 周囲のほ場や作物への農薬飛散に注意して農薬を散布するようにしましょう。
- 農薬は農薬漏れの対策をして、鍵をかけて保管しましょう。



<異物混入の防止>

- 収穫や出荷調製作業で刃物類を使用する時は、作業の前後で刃物類の数量、刃こぼれの有無を確認しましょう。
- 出荷調製用の作業台には、作業に関係のない物は置かないようにしましょう。



<器具・容器・資材の衛生管理>

- ハサミやナイフ、はかり、手袋などの器具・用具やコンテナ等の収穫容器は、清潔に保ちましょう。
- 出荷資材は、土や肥料などとふれることのないよう、清潔に保ちましょう。



<作業者の健康・衛生管理>

- 爪は短く切り、出荷調製作業の前やトイレの後などは手を洗い、清潔なタオルでふきましょう。
- 下痢やおう吐など感染症が疑われる時は、収穫や出荷調製作業を行わないようにしましょう。
- 収穫や出荷調製作業時には、必要に応じてマスクを着用しましょう。



2. 労働安全：農作業事故を防ぐための取組み

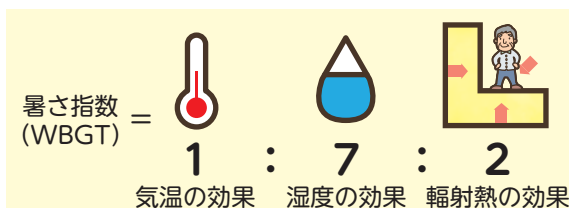
<農業機械の安全使用>

- 乗用型トラクターで作業する時は、道路やほ場の危険箇所を確認し、農業機械の転倒防止に努めましょう。
- 刈払機を使用する時は、草刈前に草に隠れている構造物や切り株、大きな石の場所を確認しましょう。刈刃に絡まった草を取り除く時は、必ずエンジンを停止しましょう。



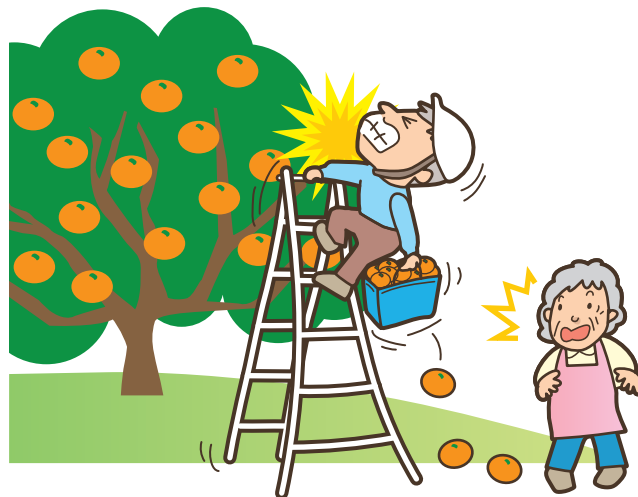
<熱中症対策>

- 暑い時の作業では、熱中症警戒アラートなどを確認し、行動の目安にしましょう。
- 高温時の作業は避け、20分おきに水分補給したり、ファンがついた空調服を着るなど熱中症対策に取り組みましょう。



<高所からの転落事故防止>

- 高所作業に用いる脚立とハシゴは使い分けましょう。
 - ※脚立：高所で作業するための器具
 - ハシゴ：高所に移動するための器具
- 脚立を使用する場合、開き止めをかける、天板とその下の段には立たない・座らない、ハシゴとして使用しないことを守りましょう。



5分野の取組内容を確認しましょう

3. 環境保全：環境への負担を減らすための取組み

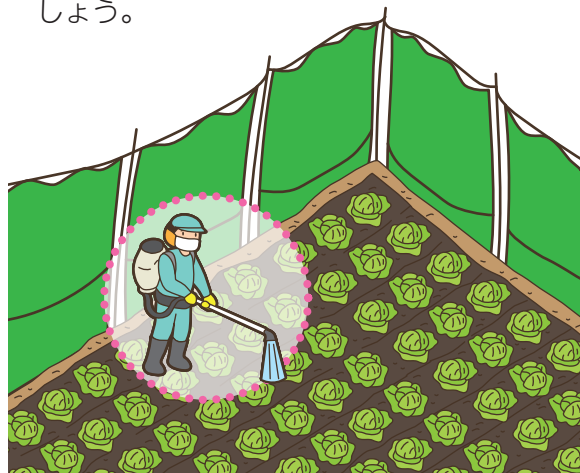
<廃棄物の適正処理・利用>

- 廃棄物は分別して適切に廃棄しましょう。
- 作物残さやせん定枝のチップを土づくりなどに活用し、廃棄物の削減に努めましょう。
- 使用済みの農薬容器、肥料袋は、J A・地域の回収事業等を利用し、ほ場に放置しないようにしましょう。



<環境に配慮した農薬の使用・保管>

- 農薬を散布する際は、農薬が飛散し、周辺住民や他のほ場に危害を及ぼすことがないように、隣人と情報交換をしたり、飛散防止ネットを設置するなど対策を講じましょう。
- 防除は化学農薬だけに頼らず、除草などによる病害虫が発生しにくい栽培環境作りや、粘着シート、防虫ネット、天敵、フェロモン剤の利用など様々な方法を用い防除しましょう。



<地球温暖化対策>

- 農業機械や暖房機器の点検整備や省エネ機器の導入、稲わらの秋すき込みへの切り替え、堆肥や炭など有機質資材の施肥などの中からできることを見つけ、温室効果ガスの排出量抑制に努めましょう。



4. 人権保護：農業従事者の人権を守るための取組み

<適切な賃金の支払い>

- 賃金は、パート、アルバイトを含め、すべての従業員に愛知県の最低賃金以上を支払しましょう。



<差別・ハラスメントの禁止>

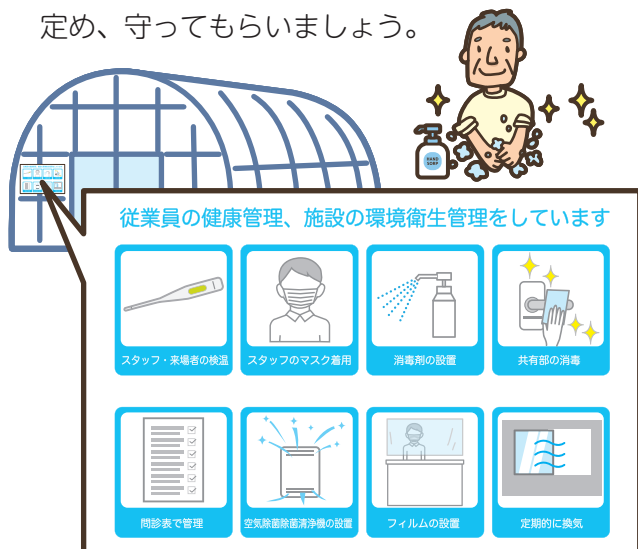
- 性別、国籍などによって差別や偏見がない職場環境をつくり、職場内でハラスメントが起きないようにしましょう。



5. 農場経営管理：農場の経営を維持・拡大するための取組み

<農場ルールの策定>

- 農作業従事者や外部からの入場者に対して、健康管理・衛生管理に関するルールを定め、守ってもらいましょう。



<生産計画の策定・記録・保管>

- 収穫までの作業内容や実施時期、品目ごとの収穫量見込みを定めた「生産計画」を作りましょう。
- 実施した農作業や使用した資材などを記録し、適切に保管しましょう。



<計量機器の点検・校正>

- 量目不足や異物混入を防ぐため、計量機器、選別機（金属探知機など）などの使用する機器について、定期的に点検しましょう。



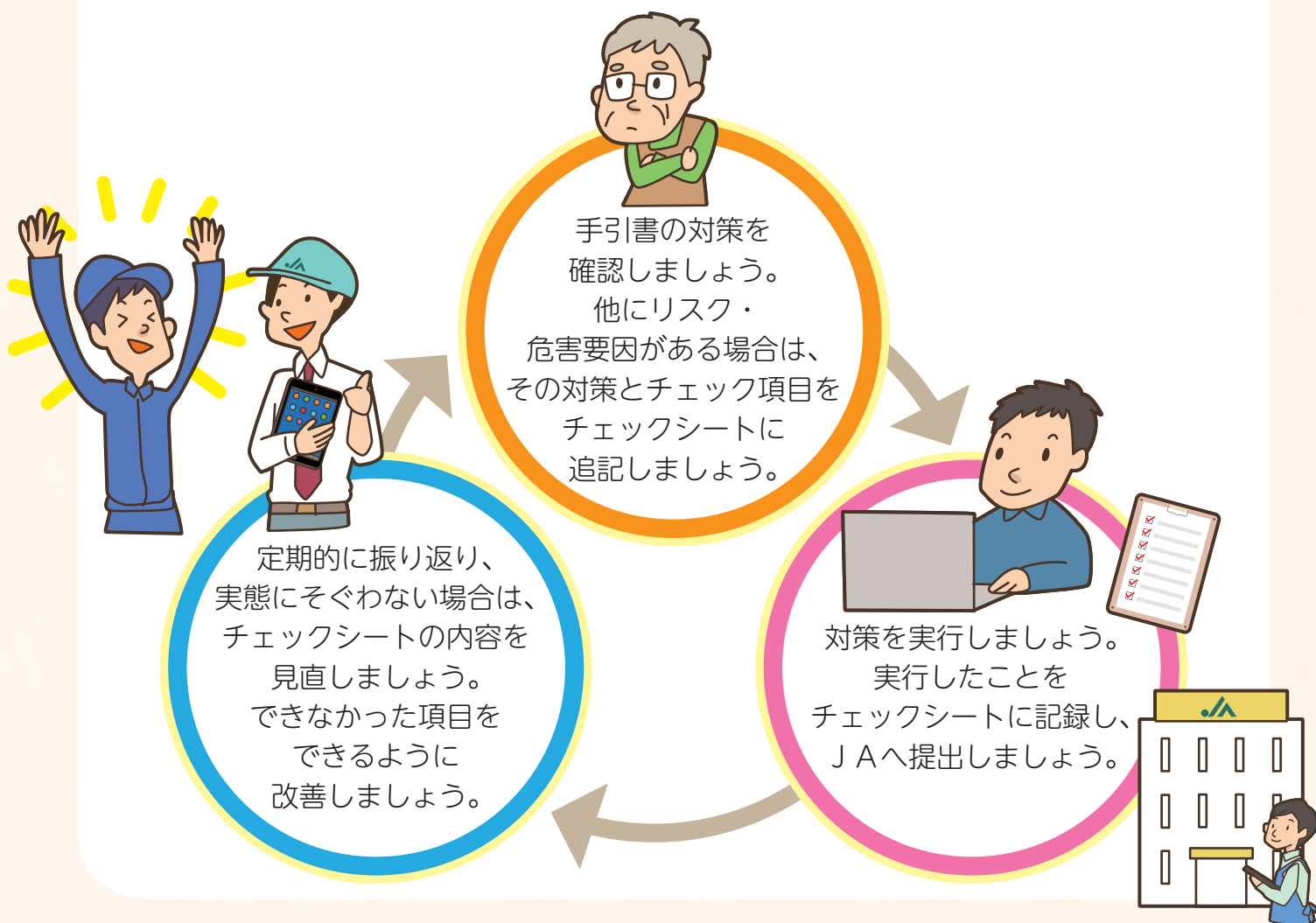
私たちがやるべきこと

ＪＡグループ愛知では、過去にグループ内で起きた事故の実例や、農林水産省の国際水準ＧＡＰガイドラインなどをもとにリスク・危害要因を特定しました。そして、グループ全体で取り組むべき対策や取組状況を記録するチェックシートなどを「国際水準ＧＡＰガイドライン手引書」として分野ごとに作成しています。私たちは、この手引書を参考にして、次の事項に取り組めます。



取組事項

- ①手引書の「危害要因分析」「リスクを低減・排除する対策」を確認しましょう。
- ②手引書に書かれたリスク以外に、「危害が起きた」「危害が起きそうだった」というご自身の経験がある場合は、その内容を手引書中の「危害要因分析」「リスクを低減・排除する対策」「チェックシート」に追記しましょう。
- ③①、②で確認した対策に取り組み、チェックシートに記録しましょう。チェックシートは、決められた期日までにＪＡに提出して確認を受けましょう。
- ④チェックシートは、市場や販売店、消費者から求められた場合に提出したり、万が一事故が起こった時の確認に使用しますので、漏れなく記録し、定期的に振り返りましょう。また、実態にそぐわない場合は、チェックシートの内容を見直しましょう。
- ⑤できなかった項目をできるように改善しましょう。



ＧＡＰに関するお問合せ・ご相談は最寄りのＪＡへ
【発行】ＪＡ愛知中央会・ＪＡあいち経済連